

# 第 3 0 回 議 会 運 営 委 員 会

日 時 令和 4 年 1 2 月 7 日 (水)

本会議終了後

場 所 第 1 委員会室

## 付議事項

1 正常な議会運営に関する陳情について

2 その他

2022年9月28日

山陽小野田市議会  
議長 高松 秀樹 様

小野田 3929  
樋口晋也

### 正常な議会運営に関する陳情

#### 主 文

広聴特別委員会により取り組まれている市議会モニター制度においてこの度は「コロナ感染症対策」を理由にモニター会議の分割開催が決定されました。

このような浅はかな運営は市議会の信頼を損ね市政発展を阻害するものであり、広聴特別委員会の適正な委員会運営とともに議会運営の基本としていかにあるべきかしっかりとした理論に基づいた議論によって統一見解を出していただきますよう陳情いたします。

#### 理 由

コロナ対応でモニター会議を分割開催することによって、モニターは1会場に4名程度がMAXとなっていますが、上限人数も決定されていません。広さに対しての人数の設定も言うまでもなく議論されておらず、科学的根拠も示されておられません。

もちろん科学者や医療研究者等が関係者にいない中で明確な根拠を持つことは困難であることは容易に想像できます。

であれば「何を持って根拠とするのか」。このことが議論されることもなく漫然と「感染症対策」と謳っての実施には市議会の委員会運営としてみたときに疑問が残ります。今時は市民グループでも各々がルール決めをして運営しています。

本当にそこまでの「感染症対策」が必要であるならば、市議会モニター委嘱式に全員が一堂にかいして開催されたのか整合性が取れません。

議会報告会、いわゆる議会カフェについてはこの度も開催が見送られました。

委員会では「何かあった時に議会が責任を負えないことはすべきでない」との意見が出ていますが、市議会モニターは議長から正式に委嘱を受けた公人であることの自負を持っています。「モニターのため」という偽善的言葉でモニターに失礼ではないでしょうか。職務怠慢の言い訳は大変見苦しく苦々しい思いでいます。

山陽小野田市、行政には市民を巻き込んだ会議が多々ありますが、この開催は間違っているのでしょうか。

大変出遅れの感は否めませんが、議会として「コロナ感染症対策」について最低限度のルール決めを行いそのガイドラインに沿って議会活動が展開されるべきだと考えます。

以上

